

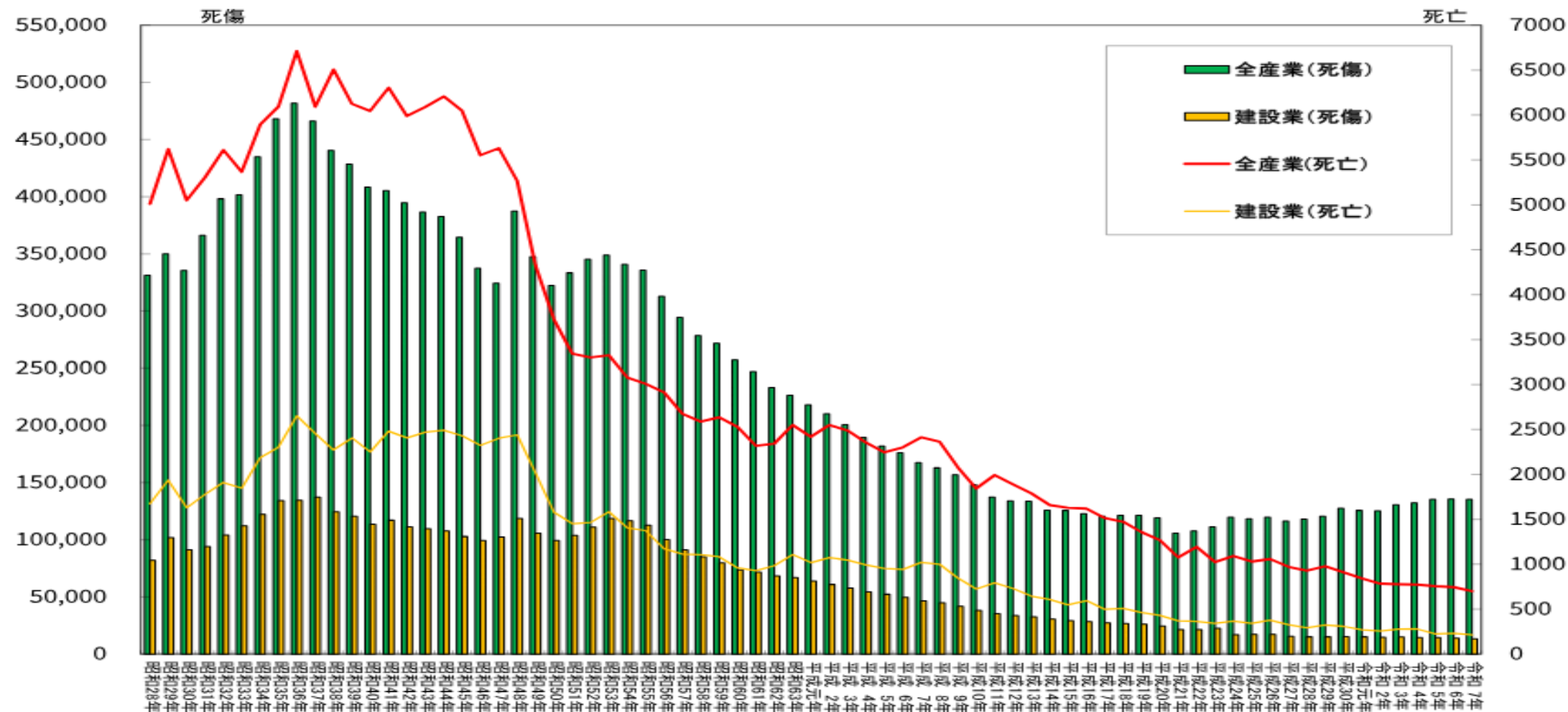
建設業における労働災害発生状況 (～数字が語る、建設現場の危険と熱中症リスク～)



葛城労働基準監督署 安全衛生課

建設業における 労働災害発生状況の推移

建設業における労働災害発生状況の推移



1. 昭和47年までの休業8日以上死傷災害件数については、労働者死傷病報告による。
2. 昭和48年以降平成23年まで休業4日以上死傷災害件数については、労災給付データによる。
3. 平成24年以降の休業4日以上死傷災害件数については、労働者死傷病報告による。
4. 死亡災害件数については、「死亡災害報告」による。
5. 平成23年は、東日本大震災を直接の原因とする死傷者を除く。
6. 令和2年以降は新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害を除く。

建設業における労働災害発生状況の推移

死傷者及び死亡者数の推移（令和元年～令和5年）

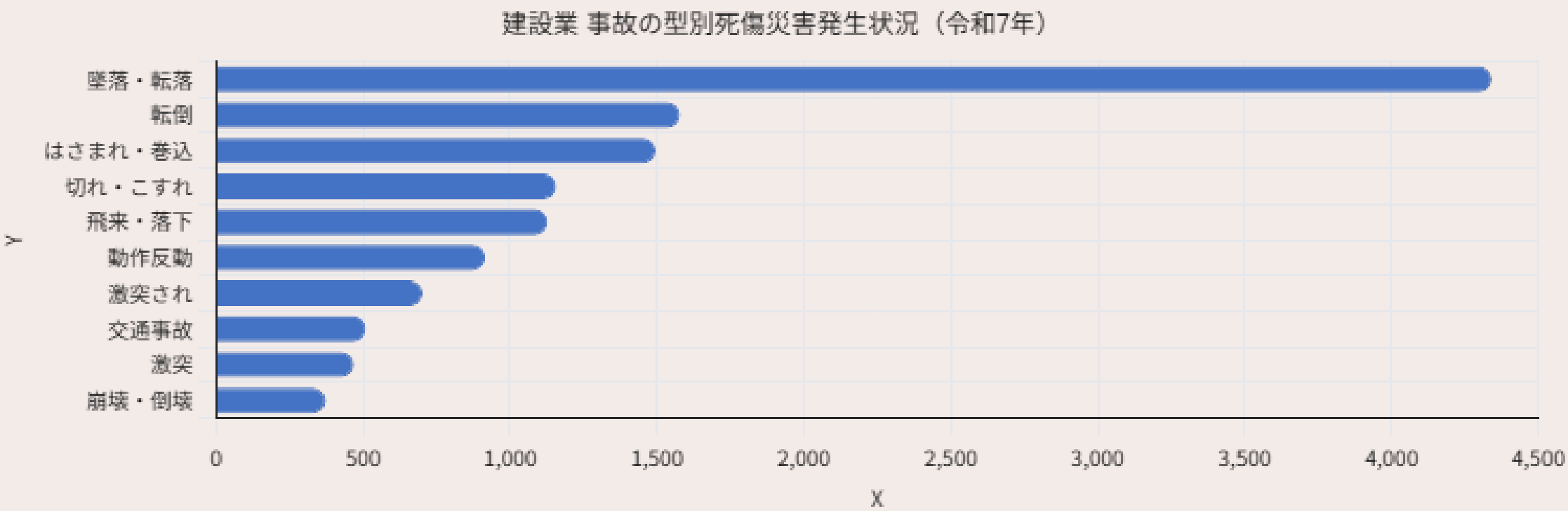
		平成31年 令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
死傷者	全産業	(125,611)	(125,115)	(130,586)	(132,355)	(135,371)
	建設業	(15,183)	(14,790)	(14,926)	(14,539)	(14,414)
死亡者	全産業	845	784	778	774	755
	建設業	269	256	278	281	223

死傷者及び死亡者数の推移（令和6年～）

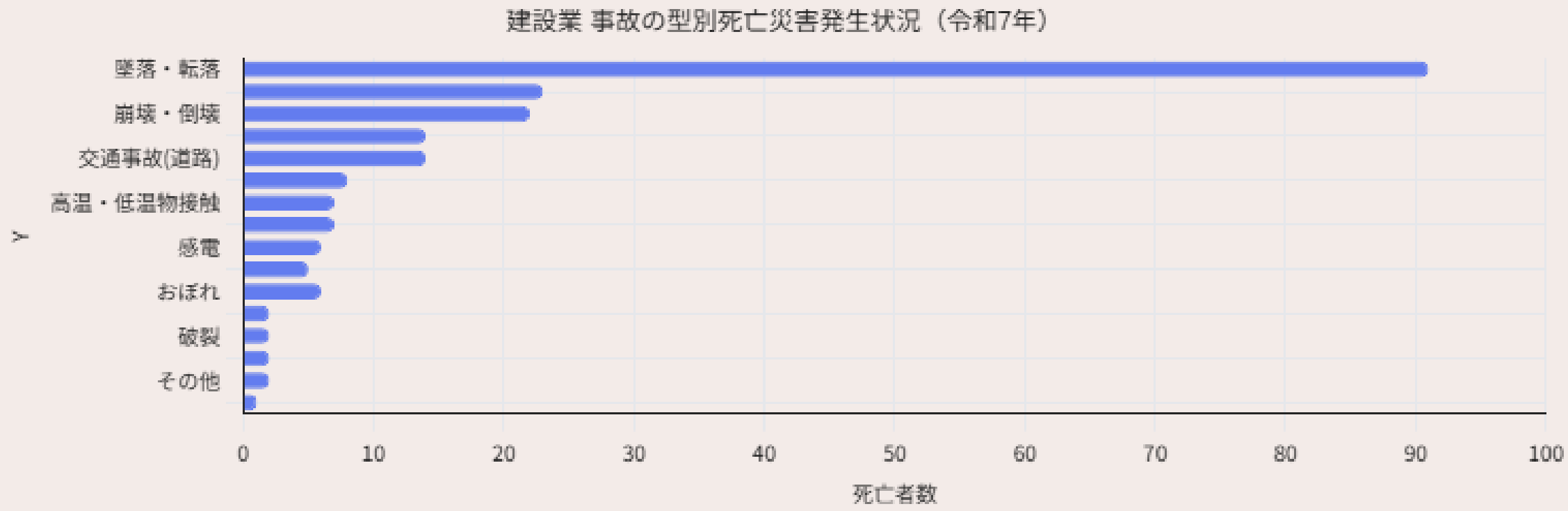
		令和6年	令和7年
死傷者	全産業	(135,718)	(135,333)
	建設業	(13,849)	(13,437)
死亡者	全産業	746	700
	建設業	232	214

- （注1：平成23年は、東日本大震災を直接の原因とする死傷者を除く）
- （注2：死傷者（休業4日以上）は労災給付データによる）
- （注3：平成11年以降の死傷者の内（ ）は労働者死傷病報告による）
- （注4：令和2年以降は新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害を除く。）

建設業における労働災害発生状況の推移

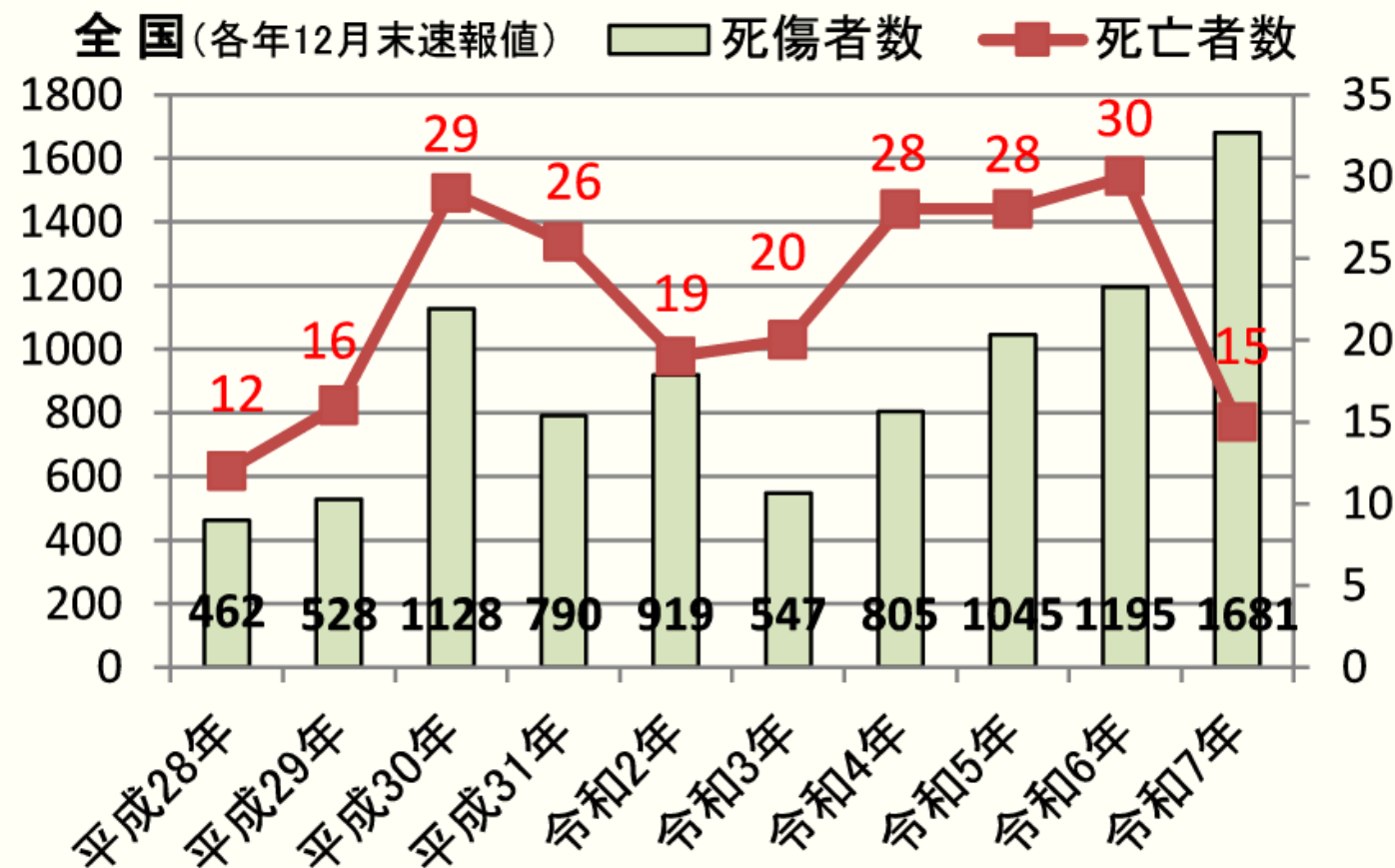


建設業における労働災害発生状況の推移

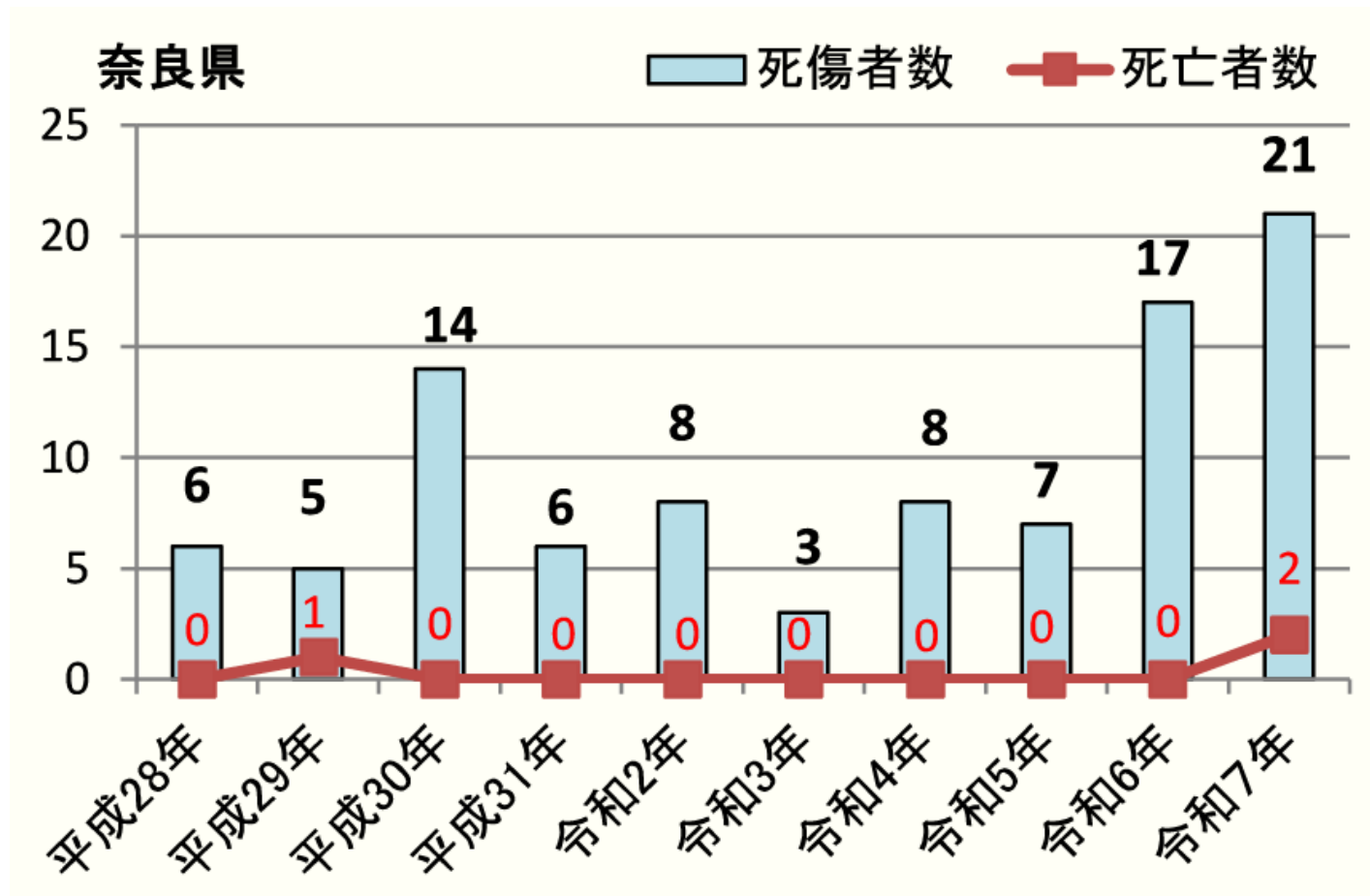


熱中症災害発生状況

全国における熱中症による労働災害の発生状況



奈良県における熱中症による労働災害の発生状況



熱中症による 死亡災害事例



6/16 14:00
警備業

- 土木工事現場における警備業務において、休憩時間終了後、立ち上がった際に目眩でふらつき、仰向けに倒れ、死亡が確認されたもの。
- 35.5℃
- 72%

7/24 13:45
農業

- 除草した草をダンプトラックへ積み込む作業中、ふらついていたため日陰で休憩させた後、車内でエアコンをつけて様子を見たが、手が痙攣していたため救急搬送するも死亡したものの。
- 36.7℃
- 73%

